

ふるさと・きずな維持・再生支援事業 事業提案書

【申請団体】

申請団体名	特定非営利活動法人フードバンク山形
(協議体の場合のみ) 代表団体名	特定非営利活動法人フードバンク山形
(申請団体の) 代表者の職・氏名	理事長・増田 勇一
協議体構成団体①	特定非営利活動法人自然農食やまがたよもぎの会
協議体構成団体②	
協議体構成団体③	
協議体構成団体④	

【団体情報】

団体ホームページ	http://hoodbank-yamagata.jimdo.com/
又は公開予定日	

※情報公開を行っておらず、かつ公開する見込みのない団体については応募できません。

1 事業名

食と心の支えあいプロジェクト

2 事業の目的及び地域課題（200字以内）

※ 今回申請する事業を実施することにより解決を図ろうとする、東日本大震災、若しくは、原子力災害を契機とした地域課題を記載下さい。

【課題】

放射能リスクや二重生活による過度のストレスにより心のバランスを崩しかけている避難者の存在や孤立の危険性を持つ避難者世帯の存在。一方で避難者コミュニティーや相談窓口が減少している現状。

【目的】

既存コミュニティーへの参加が困難となっている避難者へ、新たなコミュニティー作りを促し共に問題に向き合う避難者間関係を作る。問題意識を持った支援者となる人材の育成、共助の仕組みの基礎作りと問題の早期発見。

3 事業の必要性（200字以内）

※ 当該事業を実施するにあたり、そのニーズを把握している場合は、具体的に記載願います。

震災発生から4年が経過したが避難者間での情報共有、問題共有が出来るコミュニティの場は常に必要とされており、フードバンク山形にも支援継続を求める声が届いている。

また避難者支援の新しい形として、いままで受益者であった避難者自身が自身や自身と同じ境遇にある仲間たち、また困窮者や地域のための支援の声をあげることで、支援する側へポールシフトすることが求められる段階にきている。

4 事業内容

【実施取組1】

①（取組内容がわかる見出しを記載する）

ワンコイン de 絆の食事会事業

主な活動地域：米沢、南陽、高畠、山形など、その他県内で必要と思われた場所、要望のあった場所

実施期間：H27/6月～H27/3月末

【取組内容】（100字以内）

※ 上記2の地域課題解決、及び、上記3の事業の必要性のため、どのような事業を実施するのか具体的かつ簡潔に記載願います。

避難生活を送る親子を対象に月1回程度のカウンセリングも兼ねた交流食事会を行う。（1食500円の自己負担）その際フードバンク活動についての説明をし、興味を持った方にはボランティアとして参加してもらう。

【実施取組2】

②（取組内容がわかる見出しを記載する）

避難者自身が主体的に支援活動に！受益者から支援者へのポールシフトチャレンジと避難者世帯の見回り・見守り事業

主な活動地域：米沢市、近隣市町村

実施期間：H27/6月～H27/3月末

【取組内容】（100字以内）

※ 上記2の地域課題解決、及び、上記3の事業の必要性のため、どのような事業を実施するのか具体的かつ簡潔に記載願います。

避難者の方にフードバンク活動を通じたボランティアの場を提供する。より積極的な支援を望む方とアルバイト契約をし、避難者世帯を訪問しアンケート調査や相談支援を行う避難者見回り・見守り活動に参加してもらう。

【実施取組 3】

③ (取組内容がわかる見出しを記載する) 社会福祉協議会、他の震災支援団体と連携した食料支援	
主な活動地域：米沢市、近隣市町村	実施期間：H27/6月～H27/3月末

【取組内容】(100字以内)

※ 上記2の地域課題解決、及び、上記3の事業の必要性のため、どのような事業を実施するのか具体的かつ簡潔に記載願います。

県内各市町村社協や支援団体と連携・情報共有し避難者に対する食料支援を行う。複雑な困窮問題においては関係機関との入念な協議の上、場合によってはフードバンクスタッフ自らが支援の切り口となって関わっていく。

【実施取組 4】

④ (取組内容がわかる見出しを記載する) 絆の畑で繋がろう！有機野菜の収穫祭・勉強会事業	
主な活動地域：高畠町	実施期間：H27/6月～H27/12月末

【取組内容】(100字以内)

※ 上記2の地域課題解決、及び、上記3の事業の必要性のため、どのような事業を実施するのか具体的かつ簡潔に記載願います。

協議団体と協働し、放射能汚染や農薬等のリスクの極めて少ない安全な有機野菜を避難者に提供する。有機栽培の基礎知識が習得できる勉強会を開催し、実際に農作業を体験、作物の栽培、収穫に携わってもらう。

※実施取組に合わせて、数を追加してください。

5 事業効果 (各200字以内)

※ 当該事業を実施することにより、どのような効果が生まれるか具体的に記載してください。
① ワンコイン de 絆の食事会事業
『同じ釜の飯を食う』という諺にあるように、食事という原始的な本能を満たすための行為を共有しコミュニケーションをとることは、個々人の心理的な交流、親睦を深めるという意味を持ち、避難生活を送る親同士・子供同士の心のつながりや新たな出会いの機会を作り出す。開催時間や開催曜日を調整し、既存の避難者コミュニティーに参加できない避難者が参加可能な食事会にすることで、避難者の孤立の防止に繋がる。
② 避難者自身が主体的に支援活動に！受益者から支援者へのポールシフトチャレンジと避難者世帯の見回り・見守り事業

避難者自身が主体的に活動に取り組むことで、自己有用感を高め生きがい創造される。「受益者から支援者へ」とポールシフトを呼びかけ支援の場を提供することで新しい支援者が生まれ、継続した支援が可能になる。

また、見回り・見守り活動により心の問題、孤立、困窮という問題の早期発見と避難者世帯の現状把握が可能になる。

③ 社会福祉協議会、他の震災支援団体と連携した食料支援

他の支援団体、社会福祉協議会と協議を重ね情報を共有することで、これまで築いてきた山形県内の食を中心としたセーフティネットがより一層強化される。他機関に繋ぐことを意識することで複合的な避難者問題にも対応できるようになる。

④ 絆の畑で繋がろう！有機野菜の収穫祭・勉強会事業

開放的な屋外での避難者コミュニティーの場として機能し、共に土とふれ合い畑の恵みを収穫することで避難者間、親子間の絆が深まる。放射能汚染がきっかけで食の安全性に不安を感じ、食に関する幅広い情報を必要とする避難者の声は大きく、放射能吸収を抑える野菜の育て方や農薬のリスクについての勉強会を行うことで避難者の健康面、また食育といった面での有意義な情報提供の場となる。

【情報発信力】復興関連の取組（イベント等）を事業の主な目的としている場合のみ記載

6 実施団体の運営力強化（各200字以内）

【人材育成の観点】※活動を通じた外部専門家の招聘や研修の実施により、団体スタッフの専門的知識やノウハウの獲得が見込まれる点について記載してください。

生活相談員を有する社会福祉協議会と連携を図りそのノウハウを吸収することで、スタッフのカウンセリング能力、相談対応能力の強化が見込まれる。他協力団体との情報交換することで避難者の現状を多角的に認識したスタッフが育つ。また今事業にて避難者に支援参加を呼びかけることで新たな支援者の獲得が見込まれる。

【ネットワーク形成の観点】※活動を通じて復興・被災者支援に関する地域間、支援団体間の情報共有やノウハウの移転等を実施するものについて記載してください。

避難者自身が主体的に活動に取り組むことで、自己有用感を高め生きがい創造される。「受益者から支援者へ」とポールシフトを呼びかけ支援の場を提供することで新しい支援者が生まれ、継続した支援が可能になる。

また、見回り・見守り活動により心の問題、孤立、困窮という問題の早期発見と避難者世帯の現状把握が可能になる。

③ 社会福祉協議会、他の震災支援団体と連携した食料支援

他の支援団体、社会福祉協議会と協議を重ね情報を共有することで、これまで築いてきた山形県内の食を中心としたセーフティーネットがより一層強化される。他機関に繋ぐことを意識することで複合的な避難者問題にも対応できるようになる。

④ 絆の畑で繋がろう！有機野菜の収穫祭・勉強会事業

開放的な屋外での避難者コミュニティの場として機能し、共に土とふれ合い畑の恵みを収穫することで避難者間、親子間の絆が深まる。放射能汚染がきっかけで食の安全性に不安を感じ、食に関する幅広い情報を必要とする避難者の声は大きく、放射能吸収を抑える野菜の育て方や農薬のリスクについての勉強会を行うことで避難者の健康面、また食育といった面での有意義な情報提供の場となる。

【情報発信力】復興関連の取組（イベント等）を事業の主な目的としている場合のみ記載

6 実施団体の運営力強化（各200字以内）

【人材育成の観点】※活動を通じた外部専門家の招聘や研修の実施により、団体スタッフの専門的知識やノウハウの獲得が見込まれる点について記載してください。

生活相談員を有する社会福祉協議会と連携を図りそのノウハウを吸収することで、スタッフのカウンセリング能力、相談対応能力の強化が見込まれる。他協力団体との情報交換することで避難者の現状を多角的に認識したスタッフが育つ。また今事業にて避難者に支援参加を呼びかけることで新たな支援者の獲得が見込まれる。

【ネットワーク形成の観点】※活動を通じて復興・被災者支援に関する地域間、支援団体間の情報共有やノウハウの移転等を実施するものについて記載してください。

前年度に引き続き県内市町村福祉課、社会福祉協議会、他協力団体と情報共有し連携を図ることで、積み重ねてきた食を中心としたセーフティネットがより強固なものとなり避難者の方が安心して暮らすことのできる地域にまた一歩前進する。

7 事業スケジュール（月ごと、箇条書き）

月	実施取組 1	実施取組 2
6月	第1回絆の食事会開催	避難者世帯の見守り・見回り
6月	社会福祉協議会、他の震災支援団体と連携した食料支援	第1回絆の勉強会開催
7月	第2回絆の食事会開催	避難者世帯の見守り・見回り
7月	社会福祉協議会、他の震災支援団体と連携した食料支援	第2回絆の収穫祭・勉強会開催
8月	第3回絆の食事会開催	避難者世帯の見守り・見回り
8月	社会福祉協議会、他の震災支援団体と連携した食料支援	第3回絆の収穫祭・勉強会開催
9月	第4回絆の食事会開催	避難者世帯の見守り・見回り
9月	社会福祉協議会、他の震災支援団体と連携した食料支援	第4回絆の収穫祭・勉強会開催
10月	第5回絆の食事会開催	避難者世帯の見守り・見回り
10月	社会福祉協議会、他の震災支援団体と連携した食料支援	第5回絆の収穫祭・勉強会開催
11月	第6回絆の食事会開催	避難者世帯の見守り・見回り
11月	社会福祉協議会、他の震災支援団体と連携した食料支援	第6回絆の収穫祭・勉強会開催
12月	第7回絆の食事会開催	避難者世帯の見守り・見回り
12月	社会福祉協議会、他の震災支援団体と連携した食料支援	第7回絆の勉強会開催
1月	第8回絆の食事会開催	避難者世帯の見守り・見回り
1月	社会福祉協議会、他の震災支援団体と連携した食料支援	
2月	第9回絆の食事会開催	避難者世帯の見守り・見回り
2月	社会福祉協議会、他の震災支援団体と連携した食料支援	
3月	第10回絆の食事会開催	避難者世帯の見守り・見回り
3月	社会福祉協議会、他の震災支援団体と連携した食料支援	

※表が足りない場合は、適宜追加してください。

8 事業の実現性について（200字以内）

※ 当該事業が計画倒れとならないよう、現時点で確定していることや、これまでの経験・実績などを踏まえて当該事業の実現の可能性を具体的に記載してください。

これまでの実績として震災後より継続的に被災者に対する食糧支援を行っているほか、平成24年7月には米沢市避難者向けの遊び場“プレーパーク”の開催、平成25年度には米沢市避難者向けの“絆の畑”等を実施した。さらに今事業においては前年度、平成26年に行った“食と心の支えあいプロジェクト”の継続支援になるため、これまで培ってきたノウハウを活かすことで実現は十分可能と考える。

9 事業終了後の展開・発展性（200字以内）

※ 仮に平成27年度補助金に採択された場合、平成28年度以降の事業展開について記載してください。

実績を広く関係機関や団体にアピールし、意見や課題を集約する。併せて協力や参加を募り、より効率的・効果的な取り組みに発展させ続けていく。

10 事業の先進性・普及性（200字以内）

※ 震災を契機とした課題に対する取組であり、申請した取組がどのような先進性を有するか、どのようにして他のモデルとなるかを記載してください。

フードバンク山形にはカウンセラーやセラピストが在籍しており、食の支援で心を開くきっかけを作った上で心の支援と生活相談支援を行っている。この支援体制は要支援者が抱える問題をすばやく把握し解決するために有効に機能している。本事業では避難者支援にこの仕組みを用いることに加え、避難者自らにもその活動への理解と参加を呼びかけることで他には例がない取り組みとなり、今後他県フードバンク活動への普及が期待される。

11 特記事項（アピールポイントなど）（200字以内）

※ 特に説明しておきたい事項、アピールポイントありましたら記載してください。

私達は、社会の表面には現れにくいような、広い意味での弱者に一隅を照らすことを理想としています。避難者・支援者の垣根を越えて真に支えあう仕組み作りを目指します。

12 その他の助成金について

① 当該申請事業について、他の助成金も受けている。 答えが「はい」の場合のみ②へ	はい / <u>いいえ</u>
② 他の助成金を受けているが、当該申請事業と明確に区別することができる。	はい / いいえ

※ 他の助成金を受けた事業と明確に区別できない場合は応募できません。

第3号様式（第4条関係）

ふるさと・きずな維持・再生支援事業 収支予算書

申請者名 特定非営利活動法人フードバンク山形

【支出の部】

（単位：千円）

区 分	平成27年度 予 算 額	明 細
人件費（共済費を含む）	2,109	専任スタッフ1名 160,000円/月×9.5ヶ月 避難者アルバイト 50,000円/月×9.5ヶ月 食料品運搬スタッフ 12,000円/月×9.5ヶ月
報償費	330	カウンセラー 20,000円/月×9.5ヶ月 農業指導講師 20,000円/月×7ヶ月
旅費	95	個人車両ガソリン代 10,000円×9.5ヶ月
需用費 a1+b1+c1	410	
消耗品費 a1	315	チラシ印刷用インク、用紙、調査用品、子供のおもちゃ、文具等 10,000円×9.5ヶ月 絆の食事会補助 15,000円×10回 絆の畑維持費（肥料、農作業機械燃料、種苗等） 10,000円×7ヶ月
燃料費 b1	95	ガソリン代 10,000円×9.5ヶ月
印刷製本費 c1		
役務費 a2+b2+c2	19	
通信運搬費 a2	19	食糧支援宅配 1,000円×2件×9.5ヶ月
手数料 b2		
保険料 c2		
使用料及び賃借料	190	倉庫家賃 20,000円/月×9.5ヶ月
委託料		
A. 支出合計	3,153	千円未満切捨

【自己資金の部】※自己資金は支出合計の2割以上が必要です。

（単位：千円）

区 分	平成 年度 予 算 額	明 細
自己資金（負担者名）	631	特定非営利活動法人フードバンク山形負担
寄付金等		
その他収入		

事業収入		
B. 自己資金合計	631	千円未満切捨

【補助金交付申請額】 2,522 千円 (A. 支出合計－B. 自己資金合計)

- 注1 用紙の大きさは、A列4番とすること。欄が足りない場合は、適宜追加してください。
- 注2 「明細」欄には各区分の積算内訳として、名称、数量、単価、金額を必ず明確に記載すること。なお、「明細」については別紙として添付しても差し支えない。仕様については別途資料を添付すること。
- 注3 行政による他の補助事業も併せて利用する場合は、各補助金の用途を明確に区分し、この資金計画には、ふるさと・きずな維持・再生支援事業補助金を使用する部分の収支のみ記載すること。他の補助事業にかかる収支についてはこの資金計画には計上せず、別様式にて収支予算書を添付すること。また、他の補助事業の内容が分かる補助金交付要綱、要領等、用途の区分が分かる資料を添付すること。